

■ 計画地

東京都江東区青海三丁目地先

■ 施設概要

競技種目：ボート、カヌー（スプリント）

主要施設：締切堤、水門施設、揚排水施設、
グランドスタンド棟、艇庫棟 等

座席数：約24,000席（大会後：約2,000席）

■ 後利用の方向性

「国際大会が開催できるボート・カヌー競技場及び
育成・強化の拠点とするほか、多目的な水面利用を
図り、都民のレクリエーションの場、憩いの場と
していく」

※ パースは大会時イメージ（平成28年5月時点）



案内図



大会時のイメージパース

より良い施設とするための視点

① 競技場の良好な景観形成

② 海の森公園（仮称）との連携

③ 良好な競技環境の確保

④ 誰もが快適に利用できる競技場

取組内容・方向性

○ 広大な水面、空、公園の緑を生かすデザイン・色彩の採用
＜外部有識者を含めた検討委員会で専門的意見を反映＞

○ 歩行者動線、自転車動線の連続性確保
○ 駐車場等の相互利用に配慮

○ 風シミュレーションを踏まえた効果的な防風林の整備
○ 競技場内の航走波を減衰させる消波装置の設置
＜競技団体等と連携して対策の効果を確認＞

○ アクセシビリティガイドラインの遵守
・ 車いす席等の分散配置
・ 簡易型多機能トイレの設置によるトイレの機能分散
＜障害のある方や学識経験者等が参加する「アクセシビリティ・ワークショップ」の意見への対応を検討＞

① 競技場の良好な景観形成 - 土木施設等のデザイン検討 -

- 競技場の広大な水面、空、公園の緑を生かした良好な景観を形成するため、土木施設等のデザインを検討
- 外部有識者を含めた検討委員会により、専門的な意見を反映

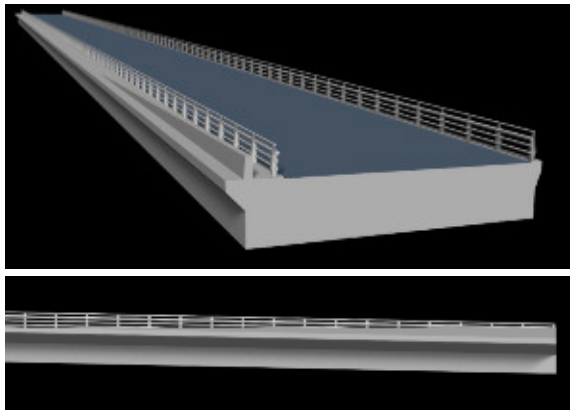
(委員長：中村良夫・東工大名誉教授（景観）、副委員長：吉田愼悟・武蔵野美術大教授（色彩）)



① 競技場の良好な景観形成 - 水門操作室、締切堤のデザイン検討（案） -



締切堤

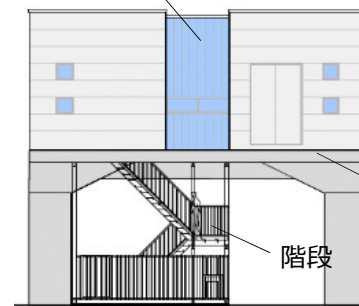


- 側面に凹凸を付けることにより、スレンダーな見え方にする。
- 鋼管杭は、重圧感を緩和し、汚れが目立ちにくい低明度の無彩色（グレー）にする。
- 防護柵はシンプルで機能的なデザインを採用し、色彩を含めて統一感のあるものとする。

水門操作室

正面図

外壁：ガラスパネル（透明タイプ）



側面図（北側）

外壁：セメント板



- 操作室は中央部の外壁にガラスパネルを採用し分割された見え方にする事でボリューム感を軽減。
- 階段を操作室下に収納することで、外観をすっきりとさせる。

② 海の森公園（仮称）との連携（案）

- 歩行者動線、自転車動線の連続性確保
- 駐車場、バス乗降場、栈橋等の相互利用によるアクセスの改善
- 施設の一体的な利活用

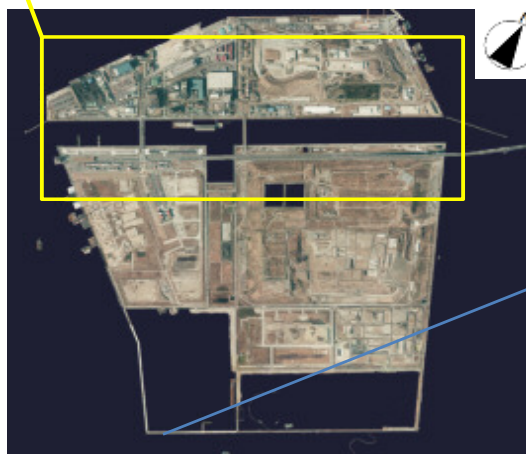
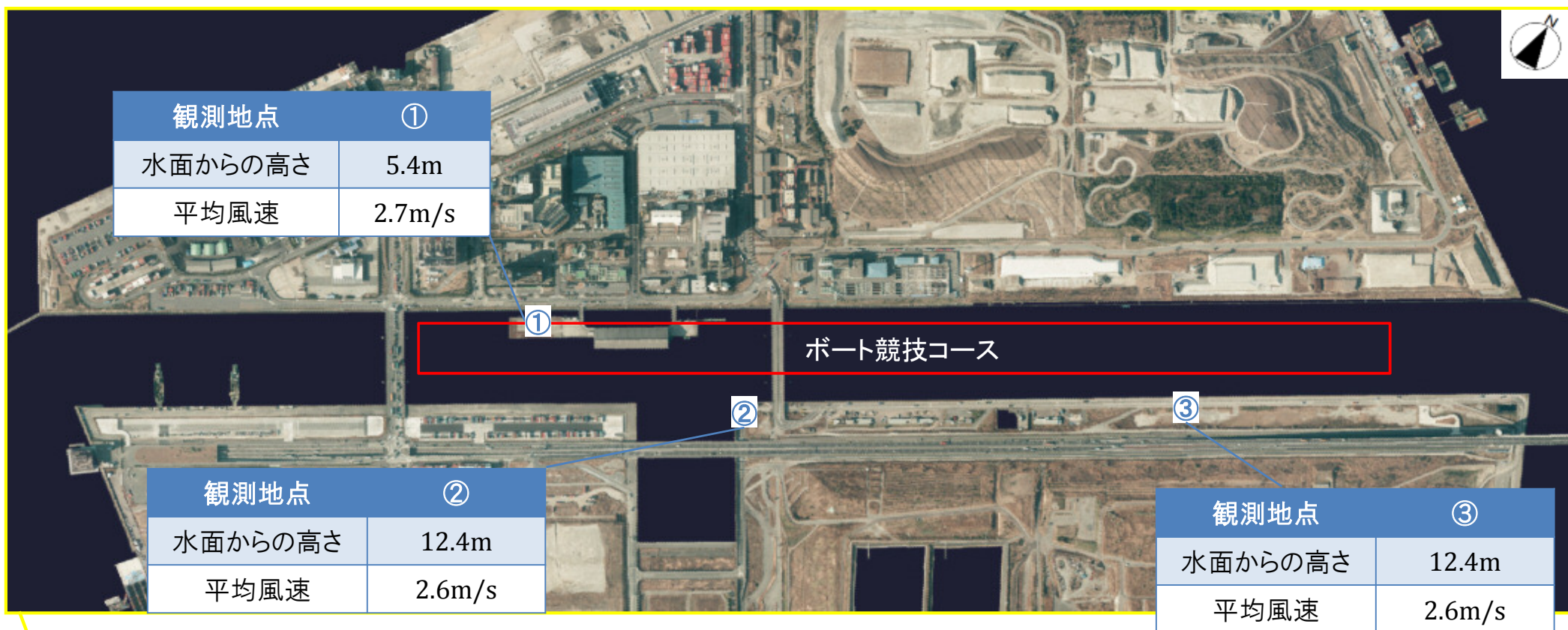


※ パースは将来イメージ（平成28年5月時点）

③ 良好な競技環境の確保 - 現況風速 -

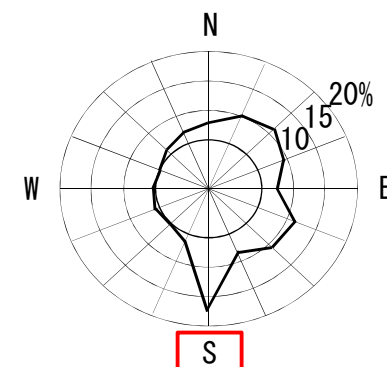
【平成27年（2015年）夏季の観測結果】

・東京2020大会の競技予定期間（7月25～9月6日、午前9時～正午）のデータを抽出し平均風速を算出



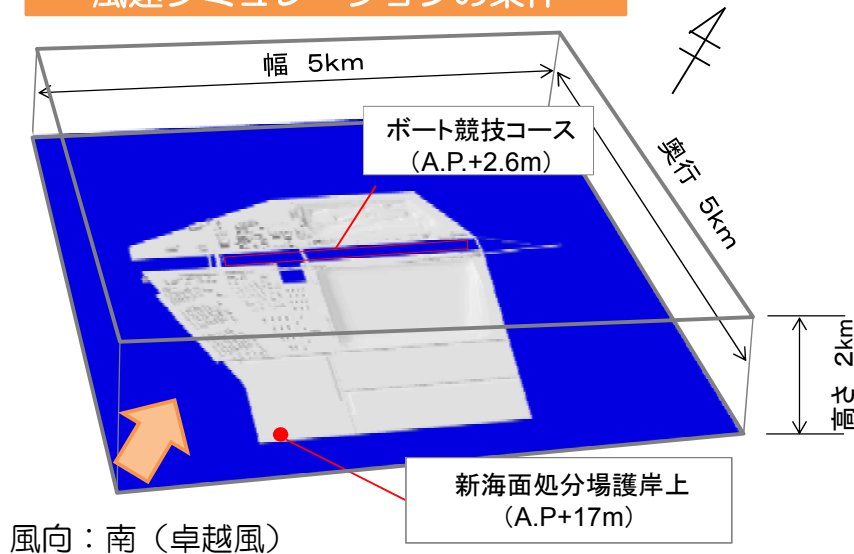
新海面処分場護岸上	
水面からの高さ	17m
平均風速	6.2m/s

新海面処分場護岸上風配図



③ 良好な競技環境の確保 - 風対策 -

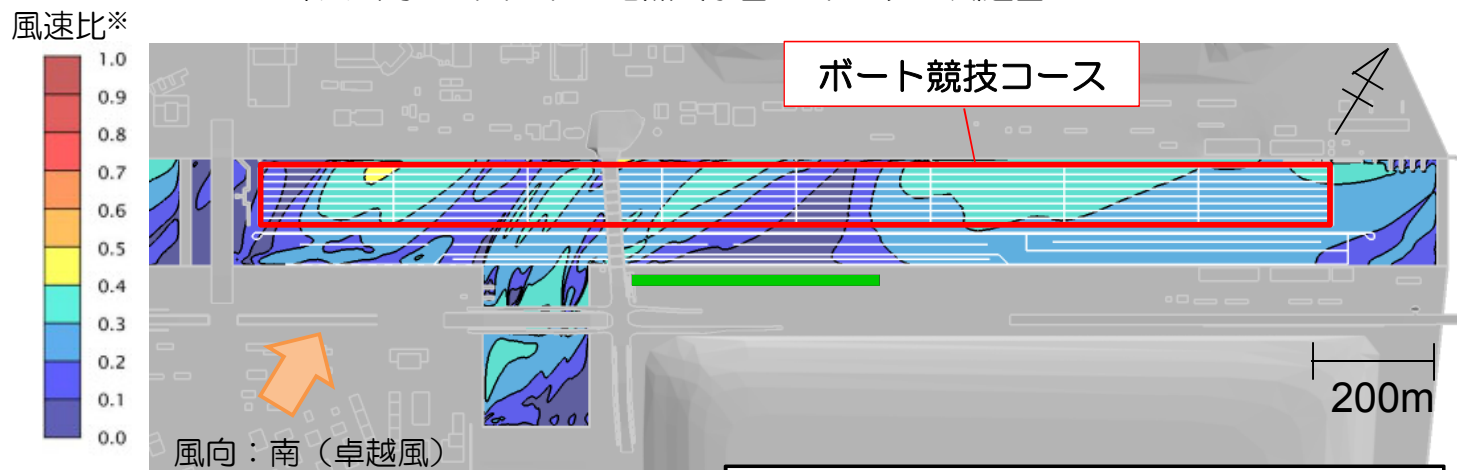
風速シミュレーションの条件



- ・ 2020年（平成32年）時の周辺開発を考慮して中央防波堤地区の地形・構造物のモデルを作成
- ・ 新海面処分場護岸上、高さA.P.+17mの風速を基準として、各地点との風速比を算出
- ・ 現況地形で実測結果との比較を行い、シミュレーションの再現性を確認
- ・ 風対策を考慮したケースでのシミュレーション結果を踏まえ、効果的な風対策を実施

風速シミュレーションの結果

- ・ 2020年大会時 A.P.+2.6m地点（水面上0.5m）の風速図

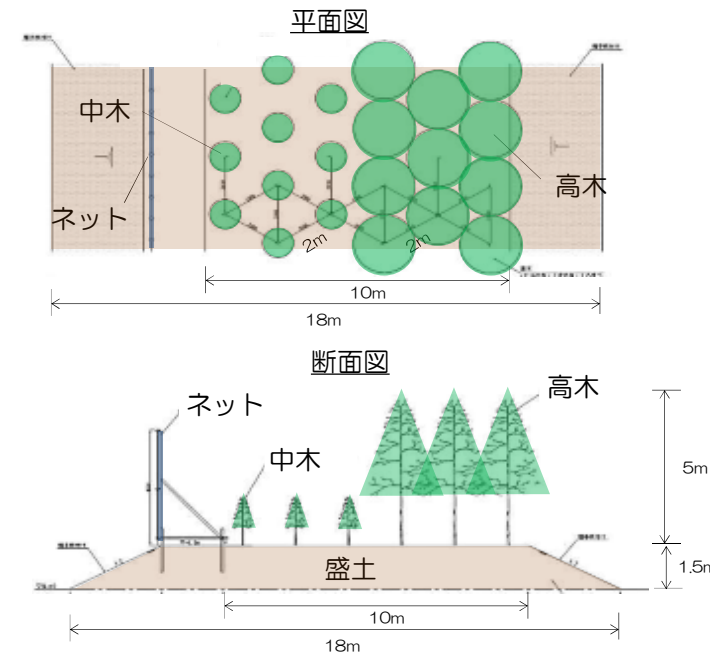


※ 新海面処分場上（A.P.+17m）の風速を1.0とする。

【凡例】

■ 高さ6.5mの防風林を設置（樹高5m＋土盛1.5m）

防風林配置図



③ 良好な競技環境の確保 - 波対策 -

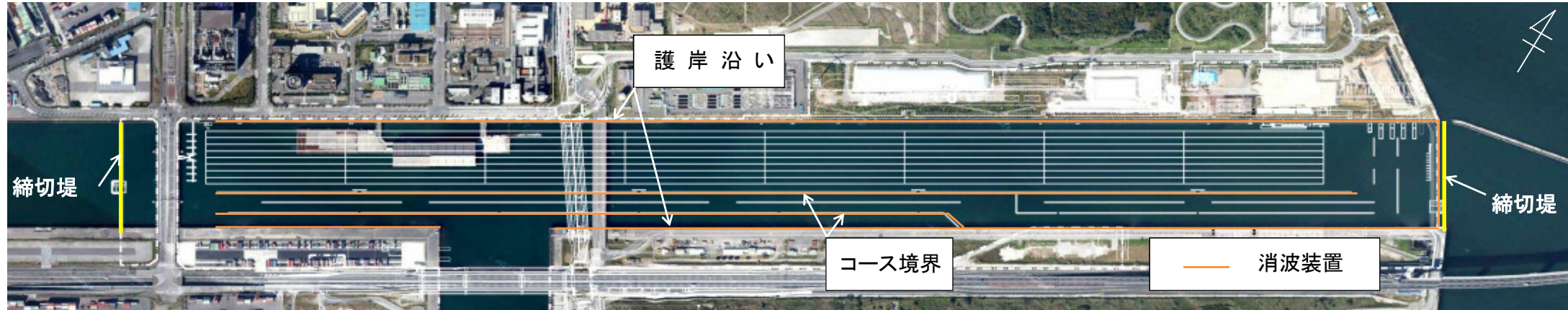
設置位置

○ 想定される波の状況

- ・ 競技場の両端に締切堤を整備することにより、外から波は入って来ない。
- ・ 競技場内のカヌー・ボートの漕艇、審判艇等による航走波が発生する。

○ 対応策

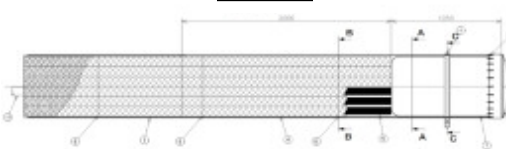
- ・ 良好な競技環境を確保するため、競技コースとウォーミングアップエリア等とのコース境界、護岸沿いに消波装置を設置



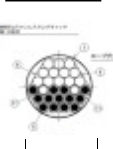
消波装置構造



平面図

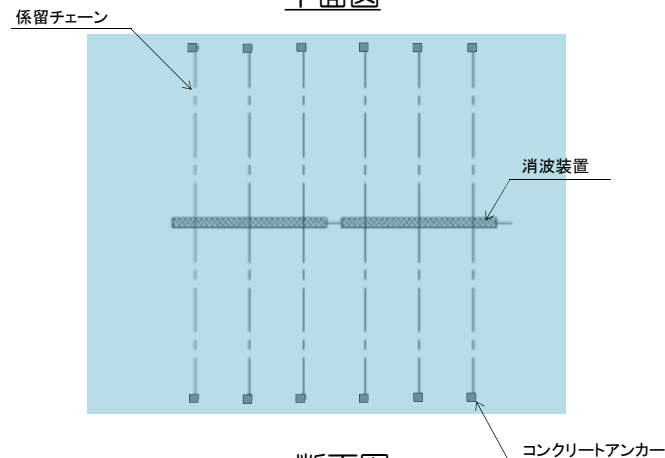


断面図

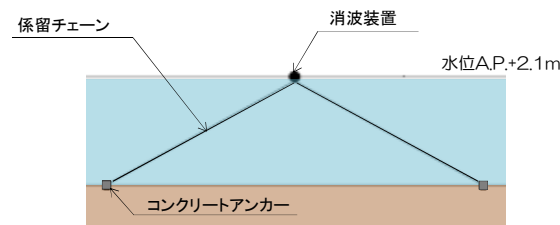


コース境界

平面図

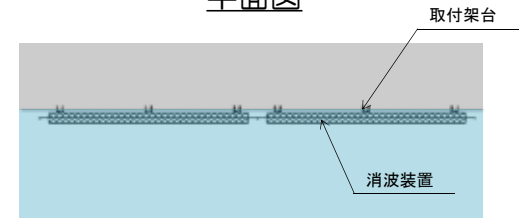


断面図

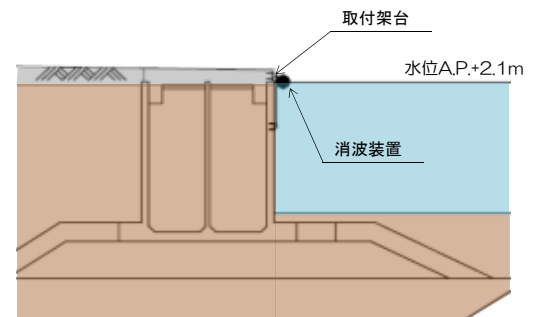


護岸沿い(北側)

平面図



断面図

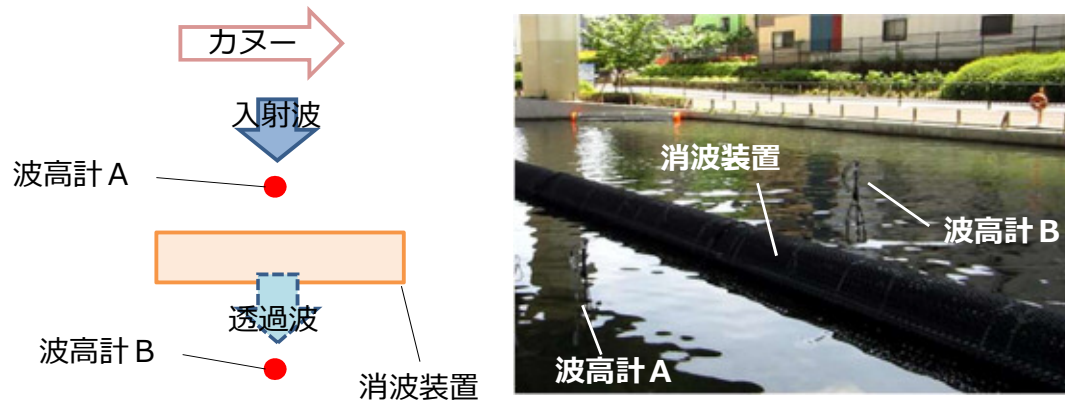


③ 良好な競技環境の確保 - 消波装置の設置による減衰効果 -

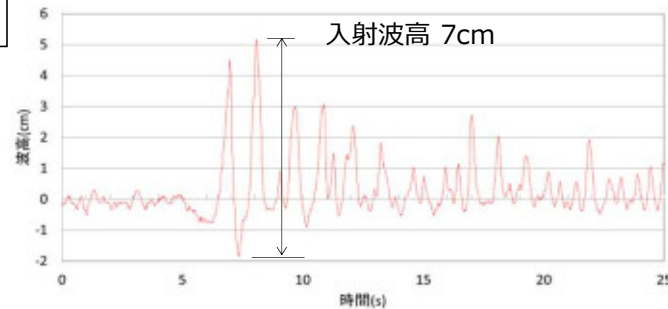
- ・実際にカヌーを漕いで航走波を発生させ、消波装置の設置による波高の変化を測定
- ・消波装置の効果を確認し、競技団体の理解を得て整備を実施

透過波

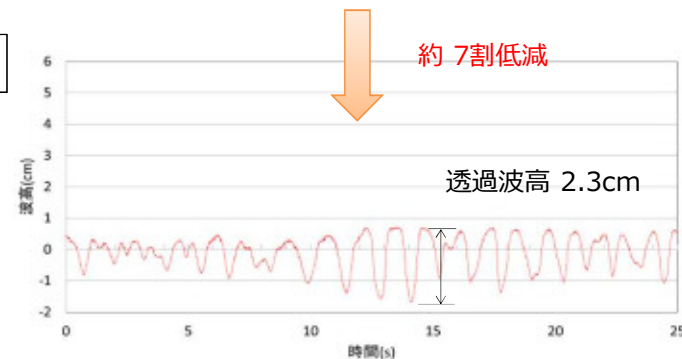
- ・消波装置の前後に波高計を設置し、入射波と透過波の波高を測定



波高計 A

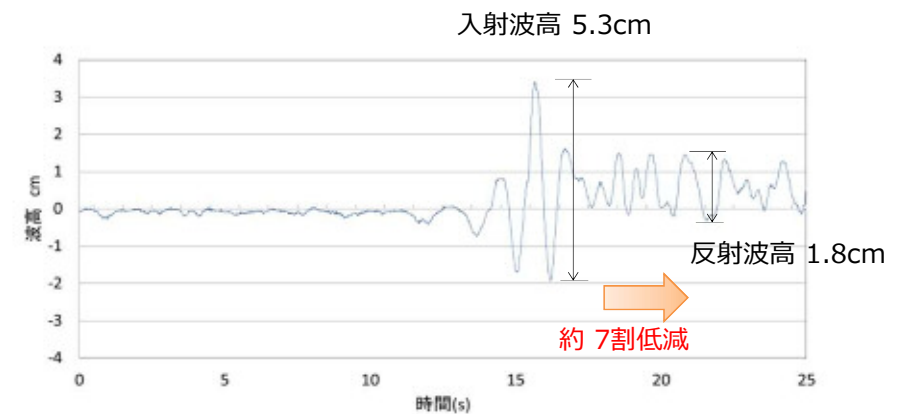
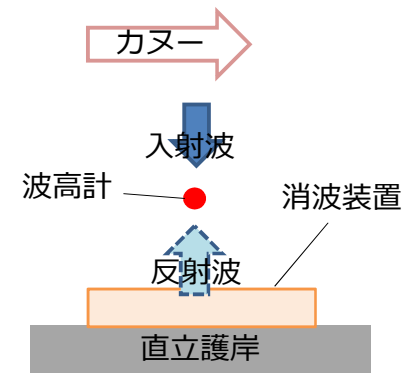


波高計 B



反射波

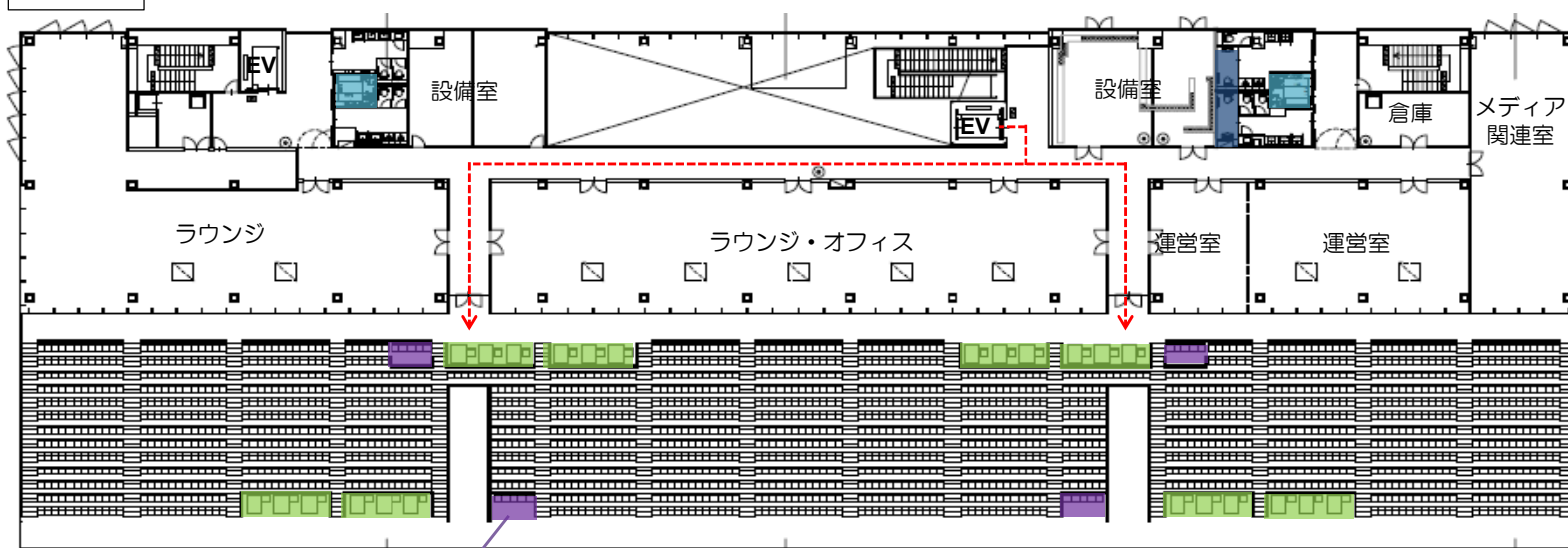
- ・護岸沿いに設置した消波装置の前面に波高計を設置し、入射波と反射波の波高を測定



④ 誰もが快適に利用できる競技場（案）

2階

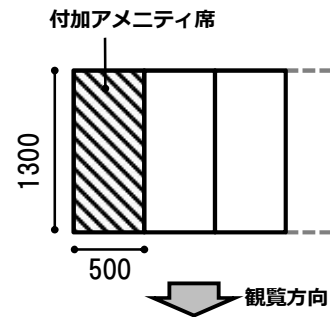
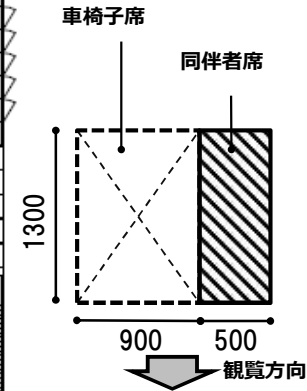
グランドスタンド



付加アメニティ席は全座席の約1%を分散配置

車いす席・同伴者席

付加アメニティ席



※ 座席を固定せずフレキシブルに利用可能なスペース

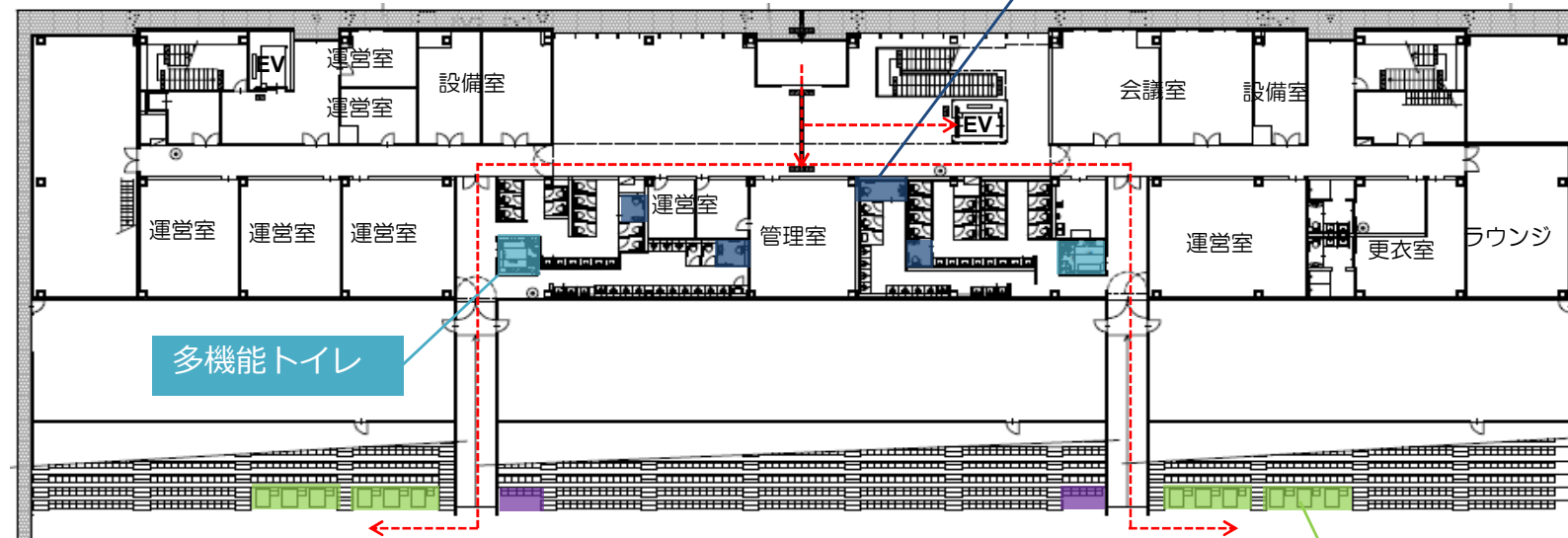
サイトラインの確保



※ 前列の観客が立ち上がった場合でも車いす使用者のサイトラインを確保

1階

簡易型多機能トイレ



多機能トイレ

※ 簡易型多機能トイレとは、車いす使用者の利用が可能で多機能トイレの機能の一部を備えたものである。

車いす席・同伴者席は全座席の約1%を分散配置

凡例

- 車いす主要動線
- 多機能トイレ
- 簡易型多機能トイレ
- 車いす席・同伴者席
- 付加アメニティ席